



「映像では映らない」大谷選手

南帷子小学校長 堀田 誠

WBC で盛り上がっている日本です。その話題の中心は大谷翔平選手でしょう。小さい子からお年寄りまで多くの方々が大谷選手の活躍ぶりは知っています。先日の壮行試合で、地面すれすれのボールに膝をつきながらバックスクリーンに放り込んだり、バットを折りながらもスタンドに運んだり、これまでの常識では考えられない現実を目の当たりにしました。また、投げては160kmの剛速球、走ってもよし、そして何より性格や振る舞いもよし。勉強は、県下でも有数の進学校にも行けたそうです。本当に「天は彼にどれだけのものを与えたのだろう」と思いたくありません。



桜が咲きました

そんな大谷選手の活躍に対して、同じ大リーガーのダルビッシュ選手は、膝をつきながらホームランを打ったことに「特に驚きません」と話していました。それは、「映像では映らない」大谷選手の姿を見たり、話したりしているから、誰もが度肝を抜くプレーは「当然」と受け止めています。「映像では映らない」部分とは、食事やトレーニングなどの日常の生活をさします。どのタイミングで食べるのか、何から食べるのか、何を多く食べているのかなど細かな部分に目を向けると、私たちが映像で見た華やかな部分と繋がるといえることです。また、ダルビッシュ選手は、「大谷選手を見ていると、まだ自分は進化できるのではないかと」刺激を受けています。ダルビッシュ選手は36歳です。プロの世界ではベテランと呼ばれる年齢で、体力も段々と落ちてきて、現状維持が精一杯だとされています。しかし、28歳の大谷選手から刺激を受け、さらに進化させようとしています。大谷選手の華やかなプレーの裏側には、決して天が彼に何でも与えたものではなく、食事・睡眠などの日常生活における弛みない努力があるのだと知りました。また、ダルビッシュ選手のように、いくつになっても他者から吸収しようとする向上心と謙虚さに感銘を受けました。

さて、あと数日で令和4年度が終わろうとしています。学校の中心となって活躍した6年生は、胸を張って南帷子小学校を卒業していきます。つい1年前、「ピカピカの1年生」で入学した1年生も、すっかりと小学生になりました。2, 3年生もいつの間にか大きくなりました。4, 5年生は、来年度は高学年という自覚も出てきました。南帷子小学校一人一人の児童は、この一年間で本当に心も体も成長しました。それも、目に見えない日常があったからでしょう。1日の約3分の2は家庭での時間です。各家庭でお子さんの成長を支えるご家族、そして登下校などの安全を見守る地域の皆さん、また、勉強から生活面などの指導・支援をしていただいた先生方など、様々な目に見えないお力添えがあったことと思います。本当にありがとうございました。

令和5年度もすぐに始まります。コロナ禍での学校生活は終息し、少しずつ本来の学校が戻ると思います。向上心と謙虚さをもって、新年度を迎えたいと思います。